平和公園と九条の丘の整備を進めます

5回目の総会を開催

9回の作業を行いました

感染防止対策をしながら、9回実施した。4月の2回は、「九条の丘」の大看板を建てる作業を行い、看板を完成させた。5月以降は、平和公園の除草作業と樹木の剪定作業、片付け等を行なった。平和公園と九条の丘を綺麗な状態に維持することができた。2021年度は17回の作業を行い、大看板の更新作業に注力したが、2022年度は通常の管理作業に戻った。最も多いときは13人が参加した。

やぐら（展望台）を建て替えます

やぐら（東側）

平和公園の稲荷神社のある区域には、やぐら（展望台）が2つあるが、どちらも老朽化しており、安全性に不安が生じている。とりわけ、東側のやぐらは今年1月に応急措置で補強したが、傷みが目立つので早急に建て替える必要がある。百里の会として、反対同盟の協力を受けながら、設計図を作りできるだけ早い時期に建て替える。

1348人が入場しました（一般見学者）

4月から3月までの1年間で、一般見学者の入場は1348人（2021年度522人、2020年度1782、2019年度1965）であった。コロナ禍とF4ファントム戦闘機の全機退役に伴い減少していたが、ドイツ空軍、インド空軍との共同訓練などが実施されたため入場者が増加した。一般見学者への対応は、地元に住む梅澤理事に依頼してきたが、負担が大きいので他の理事等も加わって分担することを検討している。なお、一般見学者からは、平和公園と九条の丘の整備等の費用に充てるために、協力金を集めている。

「憲法九条の碑」は実行委員会方式で建立します

2021年10月に理事会で建立することを決め、その方法をどうするかを検討してきたが、やっと実行委員会を立ち上げて建立する方向でまとまってきた。最初は百里の会が寄付を呼びかけて建立することを考えたが、なるべく多くの方々に呼びかけて、みんなでつくる方が良いということになった。そこで幅広い共闘組織である「百里基地反対連絡協議会（連協）」に建立の中心になってほしいと提案した。しかし連協では全加盟団体の賛成が得られなかったため、百里の会を含む5団体（百里基地反対同盟、百里弁護団、百里平和委員会、日本山妙法寺）が呼びかけ団体となって、実行委員会を結成して,建立することになった。現在、呼びかけ文を作成中である。

4月と5月に作業を実施

草が逞しく育ってきたため、4月9日と5月28日に、平和公園の除草作業などを行いました。5月28日は恒例のバーベキューで交流しました。

百里の会

自衛隊は憲法違反

第27号　2023年6月5日

一般社団法人
百里の会
茨城県水戸市見川 5-127-281
Tel 080-9457-6381
E-mail hyakurip@gmail.com
HP　https://hyakurip.web.fc2.com

基地を見下ろす大看板、「自衛隊は憲法違反」は
５０年間、何を見てきたか　その９

33. ルーズベルト三選　軍事生産を一手に引き受ける

第二次大戦中に連合国三首脳・閣僚級の会議は１０数回におよび反ファシズム枢軸国打倒および戦後の国際社会のあり方を話し合いますが、その前に大戦の戦局面の概要を見ておく必要があると思います。

＊　アメリカ大統領の任期は条例化はされていませんでしたが国民的慣習として２期・８年間までが通例となっていました。４０年１１月の大統領選挙でルーズベルトは初めて国民の支持を受け３選を果たします（4選も果たしますが４５年４月病死)。

当選の翌月にはやくもラジオ放送を通じて、まだ参戦国ではなかったけれども「民主主義の兵器廠」としての役割を言明します。これは英ソへの軍事援助であると同時にアメリカの軍需生産機構（戦後の軍産複合体）を育成するものとなりました。さらに４１年１月の年頭の辞で国民に「４つの自由」を訴え決意を表します (ニュース NO７参照)。続いて参謀本部に対ドイツ勝利の作戦計画を指示しイギリス参謀本部と協議させます。

また、3 月には伝統的な「不干渉主義」があるため他国への武器援助は困難でしたが２年間の時限立法で「武器貸与法」を制定し英国、ソ連への武器援助をおこないます。この法律は、アメリカの戦車などの武器を無償で貸与し戦争が終わったら返してもらうというもので、借款でも贈与でもなく英国、ソ連には最大の援助となりました。イギリスは財政逼迫で武器を購入する資金がなく４０年には、アメリカの老朽駆逐艦５０隻を大西洋上のイギリス諸島の租借権と引き換えに譲渡を受けるという状況だったのです。

＊　次いでに記しておくと、２９年の大恐慌以来の不況に悩まされていたアメリカ経済の工業生産は２９年を１００とすると、武器貸与法で軍需生産が本格化する４３年には２３４となり2.3倍に達します。そして戦後の４６年には資本主義国全体の工業生産の６２％になり、貿易では世界総輸出の３分の１に達します。また、失業者は３８年には１０００万人を抱えていたのが４４年には完全雇用を実現します。戦勝国・敗戦国ともに経済力は破壊されますが、アメリカ本土は戦場にならず軍事生産を一手に引き受け戦後の資本主義経済の覇者となります。

34.　反ファシズムの米英ソの大同盟がつくられる

＊　他方、ドイツ、イタリアが４１年４月にはユーゴスラビアを降伏させヨーロッパ全体を征圧し、２カ月後の６月２２日にはドイツがソ連へ電撃作戦を開始します。ここにきて第二次大戦は帝国主義戦争という枠から対社会主義国への戦争となりその性格を一変させます。

連合国の関心は情報交換がないソ連が対ドイツ戦にいつまで持ちこたえるかという事にありました。大方の予想は最強のドイツ軍にソ連は到底勝てず半年もたないだろうという事でした。ルーズベルトは７月末に腹心の特別秘書ハリ・ホプキンスをモスクワのスターリンのもとに派遣し対ドイツ戦の実情を確かめさせます。(ホプキンスは大統領の片腕でチャーチルやスターリンと頻繁に会合し首脳会議などを設定し、スターリンは彼をもっとも信頼していたと言われてます。ホプキンスあってのルーズベルトという存在です)。スターリンと会合したホプキンスはスターリンの大祖国戦争の決意と高射砲と戦闘機をつくるアルミニウムの供給を要求され、ルーズベルトにソ連が持久戦に堪えられると報告します。この決意をホプキンスから聞いた大統領は８月末に陸海軍長官にソ連の軍事支援を命じ、１０月１日に米英代表がモスクワでソ連と会合し軍事支援を約束し、米英ソのファシズム打倒の「大同盟」がつくられます。

35.　スターリン、「大祖国戦争」を呼びかける

独ソ不可侵条約を３９年８月に結んでわずか２年後に思いもよらなかったドイツの電撃攻撃にスターリンはショックで身を隠します。そして決意を新たにして７月３日にラジオを通じて、「自由の道か奴隷への道か」の戦いであり、わが祖国を守る戦いは孤立したものではなく「独立と民主的自由のヨーロッパとアメリカ諸国民」と一体のものであると「大祖国戦争」を訴えます。この一言でソ連国民を精神的に結束させ

世界の平和・民主陣営と一体であることを強調して独ソ戦の性格を特徴づけます。

具体的には第１に国民義勇軍がつくられモスクワやレニングラードでは塹壕堀りなどに婦人を中心に数十万人が動員されます。同時に日本軍の侵攻に備えてシベリアに配置されていた精鋭の赤軍（シベリア兵団）を呼び返します。第２には、長期戦に備えてウクライナやベラルーシ地方から工業施設をウラル、中央アジアその他の地域に移し軍事経済力の維持を図りました。

貨車延べ１５０万輌による１５００以上の工場施設の大移動は、対独戦において強力な兵器廠となったのです。他国には見られない戦力維持対策でした。

４２年には飛行機の生産は前年の６０％増の２万５千機、戦車は3.7倍の２万４千輌となり、モスクワ防衛を果たした４２年１月後はドイツ追撃戦に移ります。開戦２年後にはソ連が戦場に保有していた兵員は６４０万、ドイツ・同盟軍は５３０万。火砲９万９千門、ドイツは5万４千門、戦車は９６００台と５８５０台、航空機は８３００機に対して３０００機という戦力状況になっていました。ソ連は大戦を通して１６００万人の犠牲を出しながら最大のファシズム国ドイツに勝利したのです。ヒットラーはソ連を３カ月で降伏させると豪語しソ連の軍事的持久作戦を見て取れず軍事的敗北を喫します。

では、独ソ戦の概要を見てみたいと思います。

36.　最強のドイツ軍を破ったソ連軍

＊　モスクワ攻防戦

北はレニングラード（今のサンクトペテルブルグ）から南はスターリングラード（今のボルゴグラード）の約２０００キロに渡る突然の電撃戦を開始したドイツ軍は半年の間に白ロシア（今のベラルーシ）、ウクライナなどソ連全人口の４５％が住み、工業生産の３分の１を占める地域を占領します。ソ連は急遽、工場施設の移転をし兵器生産をおこないますが、軌道にのるのは４２年春ごろからでモスクワ戦には武器弾薬が足りませんでした。１０月２日にドイツ軍はモスクワの前面攻撃を開始し、首都モスクワの数十キロまでに達します。しかし、ソ連は最も鍛えられたシベリア兵団をモスクワに呼び戻し防衛軍にあてます。また、５０万におよぶ婦人を中心とした市民が対戦車壕、地雷原、防衛陣地などの構築のために軍事労働に従事します。さらにこの年は冬将軍が例年より早く訪れ冬季用の服装を準備していなかったドイツ兵の戦闘意欲を奪います。翌４２年１月にはドイツ軍は第二次大戦においてはじめての敗北を喫し、戦局をスターリングーラドに移します。

＊　レニングラード、餓死とのたたかい

北緯６０度に位置するレニングラード（北極圏は６６.３度）は真冬には零下３０度まで下がります。レニングラード戦の特徴は戦闘はあまりなく典型的な陣地戦・持久戦でそれも４１年９月から４４年１月まで「９００日」の戦いとなりました。人口は３００万以上で６７万人が犠牲者となりますが、そのうち６４万人は餓死者であったと言われています。

ドイツ軍の包囲網で飢えと寒さに堪える市民を助けたのがレニングラードの北に位置するラドカ湖です。11 月には２０センチも凍りつき３０キロさきのレニングラードに命の綱である食糧・武器・燃料などをトラックで最小限運び込むことができました。その帰りには市民を乗せて避難にあたりました。

37.　モスクワ、レニングラード戦から学ぶもの

戦争は軍事力がものをいうのは当然です。しかし、軍事力を使うのは交戦国の国民です。その国民の戦争に対する考え方・国家の意志というものが軍事力より重要です。ヒットラーの軍事力による他国への侵略・支配には何の大義もありません。ドイツ兵士は“人殺し”の役割だけです。他方、侵略される国々は祖国を、守り自らの生命・財産を守るという正義の大義があります。連合国には世界の平和民主勢力が一体となりファシズムを打倒し新しい国際社会を創り出そうという歴史的大義がありました。その大義の力は軍事力と違い無尽蔵です。

＊　戦後の６５年から７５年のベトナム戦争を見てみましょう。核兵器を保有し世界最大の軍事大国アメリカは南北ベトナムの内戦に介入し、生産力が３００分の１しかないベトナムに敗北します。その時、ホーチミン大統領がベトナム人民に訴えたことは、「自由と独立ほど尊いものはない」という事で、たとえベトナム人民が消滅しようとも最後までたたかうという決意でした。このことによって世界中に、なかんずくアメリカ国内でもベトナム反戦運動が起こり遂にアメリカは完全撤退し敗北します。

昨今では、ロシアが戦前のナチス・ドイツに侵略された事を忘れたかのようにウクライナに侵略してい

ます。「武力を使わず、話し合いで平和を」という現在のＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）の平和外交から何も学ばないプーチン大統領は歴史から姿を消さざるを得ないでしょう。

＊　４１年６月から４２年の夏までが最もソ連にとって苦しい期間でした。

この時期、ソ連国民を支えたこころはスターリンの大祖国戦争の訴えでした。また、レニングラード戦では「抗戦の犠牲は恐るべきものがあった。しかし、あきらめによる犠牲はもっとひどいものになる。」という「非人間的な猛攻にたいするほとんど超人的な意志がドイツ軍に立ち向かいました」。９００日間のドイツ軍による包囲網は多くの犠牲者をともないながら勝利に向けて進みました。

ヒットラーの誤算はソ連の軍事力を甘くみていたこと。そしてなによりもソ連国民の堅い決意を無視していたことです。

38.　大戦の転換点、スターリングラードの攻防戦

＊　モスクワ、レニングラードの攻略が失敗すると、ヒットラーは４２年７月から南部のスターリングラードに攻撃を集中します。この戦闘は双方２００万人以上が参加し第二次大戦最大のたたかいとなります。

スターリングラード攻防戦は激しい市内戦になりましたが、ソ連軍は兵力も武器も輸送され互角にたたかい逆にドイツ軍を包囲します。冬将軍の訪れる１１月にはソ連軍の総攻撃が始まり、逆に包囲され翌年２月にはドイツと同盟軍は１５０万人近い死傷者と捕虜を出し降伏します。

独ソ戦の決着は史上最大といわれる４３年７月のクルスクの戦車戦です。クルスクはモスクワとキエフの間を南北に走る中央ロシア高地の西側に位置します。双方の兵力は合わせて４００万と言われ、７月１２日には両軍の戦車１２００台が激突します。この戦車戦でドイツ軍はその攻撃力を一挙に失います。引き換えにソ連軍は追撃戦に入り１１月にはキエフを奪還し４４年１月にはレニングラードを解放し東欧諸国に進撃します。

＊　４３年はドイツだけでなく、日本・イタリアの敗退が続き第二次大戦が連合国の反撃となる後半戦に入ります。

それは４３年２月のガダルカナルにおける日本軍の敗退であり、北アフリカにおける戦車戦で名将ロンメル将軍のドイツ・イタリア両軍がアイゼンハワー率いる連合国の英米軍とイギリスのモンゴメリー将軍の挟撃に会い、５月には２５万人が降伏し北アフリカから一掃されます。

ここに来て、連合国の首脳・閣僚級の会談は一挙にファシズム三国の敗戦・終戦、占領の具体化と国際平和機構（国際連合）の具体化に進みます。その第１が、４３年１月の枢軸国に対する無条件降伏というそれまでになかった休戦・終戦・占領の仕方を決めたカサブランカ宣言に始まります。

（次号につづく　伊達郷右衛門）

ひたちなか市の菅井きよえさんからのお便り

初めてお便りさせていただきます。「百里の会の２０２３年３月２５日号」をいただきました。高齢になったせいもあり、この頃、しみじみと読めないでいましたが今日が５・３のせいか内藤功さんの「メッセージ」、伊達さんの「その８」をしっかり読み進め、No３０の「第一次大戦の教訓」からはカラーペンで線を引きながら読みました。たしかに中学や高校の日本史は、明治はじめ頃までで「あとは読んでおけ」で読んだつもりでいましたが、今回の文面のように詳しくなかったような。私が読むだけで伝えられる相手がいないのがもったいないですが。私の故夫は菅井正晴で没後１３年になりました。届く「平和新聞」の中に茨城版があり、それで「伊達郷右衛門」との名前をみて「１００歳くらいの方？」ときいて笑われたことがありました。１９４１年生まれの夫と同じくらいとか。お元気でご活躍でなによりです。次号が届くのを楽しみにしています。大部以前２回、「１坪地主」になったことを思い出しました。

（お便りありがとうございました。共に頭の体操をしましょう。）